
第16回日本ジャンボリー

第30回アジア太平洋地域スカウトジャンボリー
第23回世界スカウトジャンボリー・プレジャンボリー

平成25年(2013年)7月31日(水)～8月8日(木) 山口県山口市きらら浜 開催

基本実施要領



平成23年10月23日 現在



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

目 次

1. 開催の趣旨	1
2. 大会名称	1
3. 会期・日程	2
4. 会場	2
5. テーマとコンセプト	3
6. 大会ロゴ	4
7. 参加人数・カテゴリー・参加資格	4
8. 派遣団と参加隊	6
9. 参加に要する経費	7
10. 参加の申し込み	9
11. 大会情報と準備日程	10
12. ジャンボリーのプログラム	11
13. 会場利用計画と参加者の生活	14
14. 輸送	16
15. 入場・退場	17
16. 危機管理・安全管理・健康管理	18
17. チャイルドプロテクション	19
18. 大会組織と運営	19
第16回日本ジャンボリーに関する留意事項	25
付表-1 第16回日本ジャンボリー 会場までの交通案内図	26
付表-2 第16回日本ジャンボリー 会場図	27
付表-3 大会およびジャンボリー年表	28
付表-4 第23回世界スカウトジャンボリー情報	29

今後、本基本実施要領に含まれない情報は、追加、更新情報等は、ブリテン
(大会情報)、ガイドライン、プログラムガイド等で提供される

* この基本実施要領は、平成23年10月18日開催の理事会で承認

* APRジャンボリーとしての基本事項と大会ロゴは、平成23年10月22日、23日に開催の
アジア太平洋地域(APR)スカウト委員会で承認

1. 開催の趣旨

日本ジャンボリー（N J）は、国内と海外からの参加スカウトが、「ちかいとおきて」と「スカウト教育法」の実践を通じた質の高い活動を展開し、併せてジャンボリーならではのプログラム活動に参加することにより新たな発見や感動を体感し、スカウト同士の友情の絆を結び、国際感覚を高揚させ、世界平和を始めとする地球規模の課題について考える機会を提供する等、青少年の自律的成長を促すことを目的に、我が国のスカウト運動最大の教育イベントとして4年を周期に開催している。

第16回日本ジャンボリー（16 N J : 16th Nippon Jamboree）は、第23回世界スカウトジャンボリー（23 W S J : 23rd World Scout Jamboree）を平成27年（2015年）に山口県きらら浜でホスト開催することが決まったため、従来の4年周期を1年早め、前回大会の3年後、そして23 W S Jの2年前となる平成25年（2013年）に23 W S J プレジャンボリー（リハーサル大会）として開催することになった。

また、16 N Jでは23 W S Jに向けて、より多くの国、そして文化を迎えた国際大会とするため、第30回アジア太平洋地域ジャンボリー（30 A P R S J : 30th Asia-Pacific Regional Scout Jamboree）として開催することになった。

これらを踏まえ、本大会は23 W S Jに向けて取り組むべき課題や展望を検証する機会とするとともに、地域社会、関係組織、諸団体と連携して展開することにより、スカウト運動が社会において果たすべき役割や、その具体的な活動を社会に広くアピールし、本運動の一層の躍進を図る契機とする。

そのため、本大会では従来のN Jで培った要素に新たな取り組みを加え、世界のスカウト加盟員のみならず、日本のすべての青少年に世界的な活動を経験できる機会を提供する。

今回の特徴として、次のことがあげられる。

- 23 W S Jと同じ会場、時期、運営で、23 W S J計画に沿った活動が提供される
- 参加者の対象が従来の大会より拡大され、より多くの青少年が参加できる
- 異年齢の青少年による班活動が重視される
- ジャンボリーに参加できない青少年には、ジャンボリーの活動を経験できる「ジョイン・イン・ジャンボリー」プログラムが提供される
- 派遣団としてのプログラム提供等、運営への参画ができる
- 世界スカウト機構と各国連盟派遣団長が調査のために大会を訪問し、23 W S Jに向けた検証と分析が行われる

2. 大会名称

第16回日本ジャンボリー（略称：16 N J）
16th Nippon Jamboree

第30回アジア太平洋地域スカウトジャンボリー（略称：30 A P R S J）
30th Asia-Pacific Regional Scout Jamboree

世界スカウト機構アジア太平洋地域により、第30回アジア太平洋地域スカウトジャンボリーとして開催することが承認されたことから、両大会の名称を併記し、第23回世界スカウトジャンボリー（略称：23 W S J）のプレジャンボリーとして開催する。

(3) 気候

山口市の過去5年間の8月の気候は、平均気温27.9℃(最低24.3℃、最高32.9℃)、また平均降水量は153.7mm(一日最大53.2mm、時間最大19.9mm)である。晴天の多い地域で開催時期は暑さが厳しく、瀬戸内式気候で強い風と夏の夕なぎが顕著である。

〈参考：過去の大会の気候〉

回数	開催年	会場	海拔	平均気温	最低気温	最高気温	平均降水量
1 2	平成10年(1998年)	秋田 森吉山麓高原	700m	23.1℃	15.0℃	28.0℃	193.0mm
1 3	平成14年(2002年)	大阪 舞洲スポーツアイランド*	10m	28.6℃	25.1℃	33.5℃	90.9mm
1 4	平成18年(2006年)	石川 珠洲	5m	25.3℃	14.7℃	34.8℃	94.7mm
1 5	平成22年(2010年)	静岡 朝霧高原	800m	21.8℃	19.7℃	24.5℃	273.5mm

5. テーマとコンセプト

テーマ： 「和」 ～ WA: a Spirit of Unity ～

16NJは、平成27年(2015年)に山口県きらら浜で開催される23WSJのプレ大会であることから、23WSJと同一テーマとする。

23WSJは、伝統(tradition)と技術(technology)が交差する日本で、人類の平和(peace)と調和(harmony)をめざし、すべての青少年が一つにまとまり(unity)、明日の世界を切り開く(creating a better world)大会とするため、漢字の「和」を大会テーマとする。

日本語で漢字の「和」は、まとまり(unity)、調和(harmony/a spirit of unity)、協調(harmony)、仲むつまじさ(friendship)、平和(peace)、合計(the sum)、そして「日本」を意味する文化的概念を意味する。

コンセプト：

大会テーマの「和」～ WA: a Spirit of Unity ～は次の3つのコンセプトを通じて達成される。また、23WSJの導入として16NJのコンセプトを加える。

(1) 力：エナジー (Energy)

～青少年の活力とスカウト運動の原動力を表す力～

スカウト運動が青少年の「知的」・「身体的」・「社会的」・「精神的」・「情緒的」成長を導き、この原動力に青少年の活力が結びつくことにより、社会に役に立つ力を高める。

(2) 革新：イノベーション (Innovation)

～伝統と技術が交差し生み出す革新～

歴史の中で育まれた伝統と、新たな科学技術が交差することにより、青少年に新たな気付きを与える。

(3) 調和：ハーモニー (Harmony)

～人類の平和に向かって多様性を理解する調和～

文化、人種、宗教、価値観、生活様式等の違いを互いに認め、尊重し、多様性を理解することにより人と人の調和を生み出す。

(4) 16NJ/30APRSJのコンセプト

23WSJのプレジャンボリーとして、23WSJの導入を行い、完成度を高めるため、「コミュニケーション (Communication)」を今大会のコンセプトに加え、相互信頼を確立する。

6. 大会ロゴ

16NJ・30APRSJの大会ロゴは、この大会が23WSJプレジャンボリーとして開催されることから、23WSJの大会ロゴを基本にデザインされている。

大会ロゴ使用については、別途デザインガイドが定められ、広告物、ホームページ、資料等に統一性を持たせ、大会のテーマに沿ったイメージを形成する。デザインガイドは、ブリテン（大会情報）で発表される。

* 今大会のロゴは、平成23年10月22日、23日にタイ国バンコクで開催されたアジア太平洋地域（APR）スカウト委員会で承認された



7. 参加人数・カテゴリー・参加資格

(1) 参加人数

大会の参加区分と人数規模は、次のとおりとする。APRジャンボリーの最低基準として、参加者は1万人以上でその15%または1500人のいずれか多い人数が海外からの参加者であることが望ましい。

参加の区分	国内	外国連盟等（予定）	計
参加隊	40人×300隊=12,000人	1,500人	13,500人
大会運営スタッフ	1,750人		1,750人
派遣団本部員	250人		250人
協力者等			0人
計	14,000人	1,500人	15,500人

*外国参加者、加盟員以外の参加者、協力者の内訳は今後調整される

(2) 参加カテゴリー・参加資格

参加スカウトおよび引率指導者は、日程表に示す8月1日から8月9までの8泊9日のキャンプ生活に十分に耐えうる健康とキャンプ技能を有する者の中から、各団が責任を持って選考する。

23WSJでは生年月日により大会の参加区分が設定されるが、16NJではスカウトの参加対象を日本の学校制度を考慮し、学年制を適用する。（外国参加者については、開会式時点で12歳以上、18歳未満でAPRに提案している）

1) 参加隊

本大会は、開催年度となる平成25年度に小学校6年生以上、高校3年生以下のスカウトを参加の主体とする。参加にあたっては、活動を支援する成人指導者とともに参加隊を編成する。

① 参加スカウト

- 平成25年度に小学校6年生以上のボーイスカウト（BS）、高校3年生以下のベンチャースカウト（VS）
- BSは確定申し込み時までに2級以上に進級し、保護者から参加の同意を得ている者。
- VSは確定申し込み時までにベンチャー章以上に進級し、保護者から参加の同意を得ている者。

② 参加隊の引率指導者

参加隊指導者として、教育規程に定められた役務に応じて必要な資格を有するか、県連盟がこれと同等の資質と経験を有すると認めた者。参加スカウトに女子が含まれる場合は、指導者のうち、少なくとも1人は女性とする。また、指導者のうち1人はウッドバッジ研修所のベンチャースカウト課程修了者とする。

- 隊長：25歳以上で、ウッドバッジ研修所のボーイスカウト課程修了者。

- 副隊長：20歳以上で、ボーイスカウト講習会を修了していること。ウッドバッジ研修所修了者が望ましい。

2) 大会運営スタッフ

① 国際サービスチーム員 (International Service Team: IST)

本大会は、23WSJプレジャンボリーであることから、運営は23WSJ組織に準じて行われるが、大会期間を中心に約2千人(23WSJでは約6千人)のスタッフが必要とされ、日本全国および世界の国の人々によって構成される。

国際サービスチーム員(IST)は、開会式時点で18歳以上のベンチャースカウト(参加者で申し込む高校3年生を除く)、ローバースカウト、指導者、県連盟・日本連盟の役職員、スカウトクラブ会員、外国連盟指導者等が対象となり、大会期間を中心に業務を推進する。

これに加えて、23WSJにおけるIST養成のため、平成25年7月28日時点で16歳以上のベンチャースカウト(23WSJ開会式時点で18歳)についても、本大会のISTとして参加できる。

このチームのメンバーになった場合、12日間の時間的拘束が課せられるほか、英語かフランス語が話せることが望ましく、ジャンボリーの遂行に必要な業務のいずれかに従事しなければならない。また、この大会の経験を活かし、23WSJのISTとなることが望まれる。

② ジャンボリー・デリバリーチーム (Jamboree Delivery Team: JDT)

ジャンボリー・コアチーム (Jamboree Core Team: JCT)

ジャンボリー・マネージメントチーム (Jamboree Management Team: JMT)

JDT、JCT、JMTは、大会当日のみならず、事前から大会の計画と準備を担う。JDTは、大会各部のスタッフとなり、大会期間中はISTのまとめ役となる。JCTは各部の部長、副部長等主要スタッフとなるとともに、部を超えて大会の運営を担当する。JMTはJCTのまとめ役として大会運営に責任を持つとともに、APR(23WSJでは世界スカウト機構:WOSM)との連絡・調整を進め連携をとる。

JCTとJMTは、APR(23WSJではWOSM)が求める組織委員会の役割を担い、APRガイドライン(23WSJではWOSMガイドライン)に沿った準備が求められる。

③ 派遣団本部員 (Contingent Management Team: CMT)

派遣団本部員は、参加申し込み等の諸手続きや輸送計画を調整するとともに、当該派遣団の参加者に大会の情報を伝え、参加準備を支援する。

大会期間中は、当該派遣団の参加者に関する事項を管理し、事件・事故等問題が発生した場合の対応と解決を支援する。また、各派遣団本部に設置するパビリオンを運営し、各県・各国の郷土紹介、活動紹介を行うとともに、派遣団提供プログラムの支援を行う。

対象は、当該県連盟が選任した適任指導者とする。

3) 協力者

日本連盟は、プログラムのインストラクター、演技者等各分野における専門家を協力者として要請することがある。また、アジア太平洋地域としてアジア太平洋地域の関係者を、23WSJのレレ大会として世界スカウト機構の関係者を協力者として要請することがある。

4) ホスト参加者

日本連盟は、30APRSJおよび23WSJのホスト国連盟として加盟員を対象に、到着ポイントでの外国派遣団の出迎えと見送り、場外プログラムの運営、大会期間前後の準備・片付等に協

力する準参加者（仮称：ホスト参加者）について別途定める。

5) 来賓・見学者等

参加者以外に会場に訪れる見学者および日本連盟が招待する来賓等について次のとおり区分し、入場日時、事前登録、入場料等の細部については別途定める。

① 特別ゲスト (Special Guest)

国家元首、党首、特別な政府高官、国会議員、国を代表する大臣や大使、スカウト運動に協力が期待できる著名人、世界および地域スカウト委員長等をA P R、各国連盟、都道府県連盟との調整により招待する。

② スカウトゲスト (Scout Guest)

W O S M・A P R・各国連盟・県連盟の役員・関係者を対象とし、事前登録により会場に訪れることができる。

③見学者 (Day Visitor)

加盟員に限らず広く一般からの見学を歓迎する。見学者はプログラム実施日に入場でき、大会の活動の一部を体験する機会が提供される。入場料とプログラムは別途定める。

8. 派遣団と参加隊

(1) 派遣団・参加隊の編成

1) 派遣団の編成

大会の参加にあたっては、県連盟または各国スカウト連盟単位で派遣団を編成する。海外からのスカウト関係者の参加は、当該スカウト連盟が承認した派遣団とする。

ガールスカウト日本連盟からの参加を歓迎し、ガールガイド・ガールスカウト世界連盟 (W A G G S) のメンバーは、世界スカウト機構 (W O S M) とガールガイド・ガールスカウト世界連盟 (W A G G G S) の間で決められた条件に従い各国スカウト連盟の派遣団の一部として1 6 N Jに参加することができる。

派遣団は、参加隊および大会運営スタッフで編成し、諸調整を行う派遣団本部を置く。

県連盟で参加隊を編成できない場合には、複数の県連盟で派遣団を編成することができる。

2) 参加隊と班の編成

参加隊の構成はスカウト3 6人と成人指導者4人とし、9人のスカウトからなる班(パトロール)4班で1隊を編成する。それぞれの班には、隊長または副長のいずれか1人の成人指導者がつかなければならない。

指 導 者	隊長×1人、副長×3人	4人
スカウト	9人×4こ班	36人
		計40人

3) 混成隊の編成

県連盟で基準の参加隊を編成できない場合には、近隣の県連盟と調整のうえ、複数の県連盟で混成隊を編成することができる。

4班に満たない参加申し込みについては、地域性と国際性を考慮しながら1 6 N J 実行委員会で調整し、他の県・国からの班と混成で1隊を編成する。

特別な配慮が必要な場合は、県連盟と日本連盟で事前協議を行う。

(2) 参加人員・参加隊数の割当

参加人員の割当は次のとおりとし、県連盟は割り当てられた人数を、責任を持って確保する。

1) 参加隊

参加隊は、平成22年度末のボーイスカウト部門とベンチャースカウト部門のスカウト登録人数に基づき、県連盟に比例配分した参加隊数・人数を示し、割当希望調査を行う。整数の配分により参加割合に格差が生じる場合は、2班単位（0.5隊）の適正数を示すことがある。

県連盟からの割当希望数を16NJ実行委員会で調整のうえ、平成24年2月末日までに最終的な県連盟別割当参加隊数・人数を示す。参加隊数の増減を希望する場合には、平成24年8月末日までに日本連盟と事前協議を行い、承認を得た隊数により参加予定申し込み手続きを行う。

2) 国際サービスチーム員（IST）

国際サービスチーム員の人数は、参加隊の1班に対して2人の割合で県連盟または派遣団に割り当てを標準とする。ただし、次項に示す派遣団提供プログラム等を担当する場合は、別途必要人数が示される。

3) 県連盟派遣団本部員

県連盟の派遣団本部員の人数は、参加隊2隊に対して1人を標準割合とし、次の人数を標準人数として示す。ただし、APR（世界）スカウトセンターでの派遣団本部設置と展示、派遣団提供プログラム等の業務推進に適した人数を考慮する必要がある。

参加隊 申込数	派遣団本部員標準人数	参加隊 申込数	派遣団本部員標準人数
1～8こ隊	4人以上	21～24こ隊	12人以上
9～12こ隊	6人以上	25～28こ隊	14人以上
12～16こ隊	8人以上	29～32こ隊	16人以上
17～20こ隊	10人以上		

(3) 参加日程

参加者は、2ページ第3項に示す日程の入場日から退場日までの全日程に参加することを原則とする。

9. 参加に要する経費

(1) 大会参加費

参加者1人あたりの大会参加費は50,000円とし、日本連盟加盟員は予納金と残額を分割して納入する。APRからの参加者の参加費については、別に定める。

1) 参加費の予納金（平成24年10月末日までに日本連盟に納入する）

参加者は1人あたり10,000円を予納金として、参加予定申し込みと同時に所属県連盟を通して日本連盟に納入する。

予納金は、他の参加者の予納金として振り替えることはできるが、払い戻しはしない。また、予納金は参加確定申し込みの際に納入する他の参加者の参加費の一部として振り替えることはできない。

2) 参加費の残額（平成25年3月末日までに日本連盟に納入する）

参加者は参加費の残額1人あたり40,000円を参加確定申し込みと同時に所属県連盟を通して日本連盟に納入する。

参加確定申し込み時に納入する参加費の残額は、他の参加者の参加費に振り替えることはできるが、払い戻しはしない。

(2) 大会参加費の一括納入

外国派遣団、ガールスカウト、関係諸団体等の加盟員以外の参加者は、申し込み手続きの関係から、大会参加費を参加確定申し込み時に一括して納入することができる。

(3) 経費の内訳

大会参加費は、大会の準備および開催に要する経費に充てる。期間中の傷病に備え、各派遣団で旅行傷害保険に加入することを勧める。

- 1) 諸準備から報告書作成までの経費
- 2) IDカード、大会参加章（ワッペン）、大会ネッカチーフ、大会ハンドブック等の参加パック
- 3) 7月31日夕食分から8月8日朝食分までの23食分の主食（米等）を含む食料費
※大会運営スタッフは、7月29日夕食から8月9日朝食までの32食
- 4) 炊事用等の燃料費
- 5) 配付資料の費用
- 6) 会場の設備費および運営費
- 7) 会期中の救護衛生費（ただし、既往症の処置、場外病院での治療、薬代は含まない）
- 8) その他（賠償責任保険等は今後調整の上、ブリテンで発表される）

外国連盟からの参加者については、参加者負担金から次の経費に充てる。

- 1) 指定の到着ポイント（福岡国際空港、山口宇部空港、JR新山口駅）から会場までの往復の交通費
- 2) 外国派遣団の参加隊あるいは班に貸与する食堂フライ、テーブル、椅子、炊具等の費用
※個人用の食器等の装備品は派遣団負担とする
※APR各国連盟からの派遣団へは宿泊用のテントを貸与する

(4) オペレーションきらら（Operation Kirara）

23WSJでは、経済的に参加することが困難な国を支援し、より多くの国と地域からのスカウトが参加出来るよう、「オペレーションきらら」として参加者負担金合計の3%に加え、日本からの参加者から1人1000円を募り、この経費に充てることとしている。

16NJは、30APRSJとして、また23WSJプレジャンボリーとして開催されることから、日本からの参加者から1人1000円を募り、16NJ「オペレーションきらら」として、経済的に参加することが困難なAPR等の国々を支援する。

(5) 返金規定・キャンセルポリシー

1) 参加者の人数変更

参加申し込み後、申し込み・参加人数が減少しても、一度納入した参加者負担金の返金はできない。

2) 大会中止

本大会は、大地震や津波等の自然災害、戦争やテロ行為、感染症の流行等が発生した場合、大会を中止することがある。その場合、納入された大会参加費は、大会準備に要した諸経費を差し引いた額を返金する。

10. 参加申し込み

(1) 参加予定申し込み

- 1) 各団は、参加隊と大会運営スタッフの参加希望者を取りまとめ、予納金（1人あたり1万円）を添えて、平成24年9月末日までに所属県連盟に提出する。
- 2) 各県連盟は、県連盟内の参加予定人員その他について次の項目別に整理し、平成24年10月末日までに参加予定申込書と予納金を日本連盟事務局に提出する。
 - ① 参加隊のスカウトおよび指導者の参加予定人数
 - ② 大会運営スタッフの人数と名簿
 - ③ 県連盟派遣団本部員の人数と名簿
 - ④ 人員および荷物の輸送計画

(2) 参加確定申し込み

- 1) 参加者は参加確定申込書に必要事項を記入し、大会参加費の残額（1人あたり4万円）を添えて、平成25年2月末日までに所属県連盟に提出する。
- 2) 各県連盟は、参加確定申込書および大会参加費の残額を取りまとめ、平成25年3月末日までに日本連盟事務局に提出する。
- 3) 参加確定申し込み人数を超える追加参加は認められない。
- 4) 県連盟の参加人数が確定した後は、申込みが1隊40人に満たなくても、40人分の参加費を負担する。（1隊あたり200万円）

1 1. 大会情報と準備日程

(1) ブリテン (Bulletin : 大会情報) の発行

基本実施要領の追加・更新情報、大会の各種情報、派遣団や参加者の準備に必要な情報については、準備の時期に応じてブリテンを発行して提供する。

発行予定	号	予定内容
平成 24 年 2 月	第 1 号	大会概要、ロゴ、デザインガイド、参加申し込み、参加費、交通、会場、生活、プログラムの概要等
平成 24 年 8 月	第 2 号	参加登録方法 (WEB)、プログラムの内容、参加費の納入、大会組織、チャイルドプロテクション、記念品等
平成 24 年 11 月	第 3 号	プログラムの最新情報、I S T 情報、参加隊の準備訓練、各国・県の展示、到着と出発等
平成 25 年 2 月	第 4 号	参加見込み、I S T 情報、派遣団本部パビリオン、派遣団レセプション、見学・ゲスト、プログラム詳細、大会ソング等
平成 25 年 5 月	第 5 号	参加見込み、プログラム詳細の最新情報、大会到着時のチェックイン方法、各 S C 紹介、大会運営スタッフの到着と出発等

(2) 各種要項、ガイドラインの策定

本実施要領に定められていない参加申し込みに関する手続き、安全と健康に関するガイドライン等各種要項やガイドラインについては、実行委員会で定めて発行する。発行時期と内容はブリテンで紹介する。

(3) ホームページ

本基本実施要領、ブリテン、各種要項、ガイドライン等、本大会に必要な情報は、随時 1 6 N J ホームページに掲載される。大会の重要な情報提供手段として活用される。
URL は今後ブリテンを通じて発表される。

(4) 準備日程

情報提供や会議の開催等のスケジュールについて、次のとおり予定するが、協力先や関係機関等との調整により変更の可能性がある。

〈準備日程案〉

時期	日本連盟の準備・連絡	県連盟・地区・団の準備	
平成 23年 (2011年)	10月	基本実施要領配付	県連盟へ割当希望数調査
	11月	基本実施要領と概要をホームページで公開	↓
		諸会議等で大会概要について説明	
			割当希望調査回答(11月末日)
12月			
平成 24年 (2012年)		諸会議等で大会概要について説明	
	2月	ブリテン第1号の発行	
		参加者割当を通知	県連盟内・地区内の割当を調整
			団内・保護者等に案内
	5月	全国大会にて大会概要の説明	↓
	8月	ブリテン第2号の発行 派遣団長会議・会場視察の実施	
	9月	参加予定申し込み・第1次輸送調査	
		県連盟締め切り(9月末日)	派遣団の輸送計画を検討・調整
		日本連盟締め切り(10月末日)	スカウト・指導者の参加希望を調整
	11月	ブリテン第3号の発行	
平成 25年 (2013年)	1月	参加確定申し込み・第2次輸送調査を実施	
	2月	ブリテン第4号の発行	参加隊の編成
		確定申込み 県連盟締め切り(2月末日)	
	3月	確定申込み日本連盟締め切り(3月末日)	参加隊の事前準備訓練
	5月	ブリテン第5号の発行	↓
		派遣団長会議・会場視察の実施	
		全国大会にて大会概要の説明	
	7月		
8月	大会開催	大会参加	

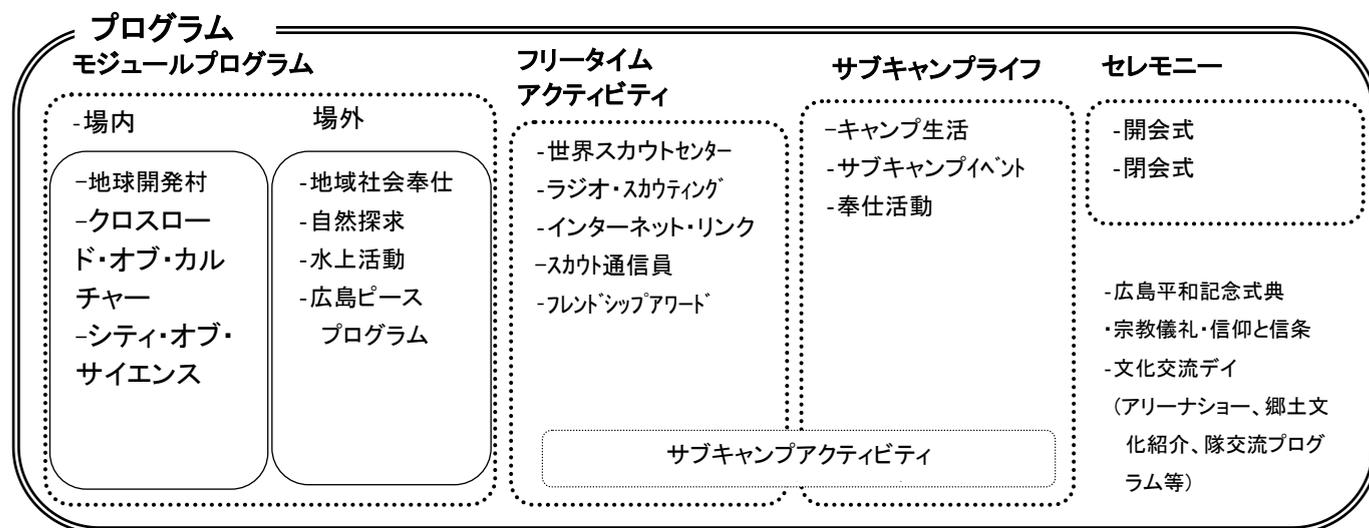
12. ジャンボリーのプログラム

(1) プログラム

本大会のプログラムの根幹は、23WSJを見据えて実施されるところにある。従って、世界スカウト機構が定める世界スカウトジャンボリープログラムガイドラインに沿って実施される。ジャンボリープログラムとは、ジャンボリー会場で実施されるプログラムだけではなく、ジャンボリー期間前後を含んだ活動、会場外で実施されるプログラム(ジョイン・イン・ジャンボリー)を含むものである。また、ジャンボリーへの参加申し込み、面接、各種準備訓練、期間中の野外での集団生活、プログラムへの参加、参加スカウト同士の交流、報告までのジャンボリーに関わる一連の要素をすべて包含している。

23WSJで提供されるプログラムは、世界スカウトジャンボリーの参加年齢である14歳から17歳の青少年を対象にし、世界スカウトジャンボリープログラムガイドラインで示されている教育目的と合致し、大会テーマである「和 : a Spirit of Unity」のもとに「力 (Energy)」「革新 (Innovation)」「調和 (Harmony)」の3つの大会コンセプトの一つひとつに関連して構成される。16NJでは、参加対象の下限が2歳低いので、これを考慮したプログラム提供が行われる。

〈プログラムイメージ〉



(2) プログラムの概要

1) モジュール活動 (Module Activities)

プログラムスケジュールはモジュール (Module) 方式で構成されており、モジュール活動は、すべての参加者が参加することができる。モジュールの構成はサブキャンプごとに異なり、隊または班単位で参加する。プログラムは、半日または1日の単位で場内と場外に分かれ実施される。場外モジュールについては、大会日程の関係から、参加者は1つに参加する。

① 場内モジュール(モジュールの名称は今後変更されることがある)

- 地球開発村 (Global Development Village : GDV)

世界が直面する諸問題を題材とし、「平和」「環境」「健康」「人権」「開発」「防災」の6つのテーマに分かれて実施される。テーマに沿って持続可能性という観点から諸問題に対して向き合い、学び、知識を深める。国連組織、NGO・NPO、外国連盟や都道府県連盟等の支援、協力を得て実施する。

- 文化の交差点 (Cross Road of Culture : CRC)

「山口県の文化」「日本の文化」の2つのテーマに分けれ、山口県の文化では山口県内の食文化・伝統文化を、日本の文化ではアニメ・マンガをはじめとするサブカルチャー、茶道・華道などの「道」、伝統芸能・工芸など伝統と現代の文化が交差している様子を体験し、文化の伝来や波及について学ぶ。都道府県連盟や行政等の諸団体の支援、協力を得て実施する。

- 科学の都市 (City of Science : COS)

工業立国日本の自動車、新幹線、電気・電波といった科学技術について学び、科学技術の進歩、科学の恩恵と問題点に対する理解を深める。企業や山口県内の学校等からの支援、協力を得て実施する。

② 場外モジュール

- 地域社会奉仕 (Community Service)

自分自身の国あるいは県と異なった地域の取り組み、要望、生活を理解し、視野を広げる。会場周辺または山口県内の市町村へ赴き、清掃活動などの奉仕活動を行う。加えて、学校等訪問を行い、地元の人々と交流する。

- 自然探求 (Nature Adventure)

会場周辺でのハイキング・自然体験型アクティビティ等を通じて、日本における生物の多様性や日本独自の植生、自然とのかかわり合いを理解することによって、自然への感謝の念を深める。

- 水上活動 (Water Activities)

会場内の水泳施設や周辺を利用し、ヨット、ウインドサーフィン、セイリング、シュノーケリング、ラフティング、フィッシング等での体験を通じて、身体的成長を高める。

- 広島ピースプログラム (Hiroshima Peace Programme)

広島市に赴き、原爆資料館の見学や様々なプログラムを通じて、大会テーマ「和」の理解を深める。

2) サブキャンプライフ (Sub Camp Life)

ジャンボリーにおける野外生活そのものをプログラムと捉え、各参加隊での野外炊事や共有スペースの清掃、奉仕活動等を通じてサブキャンプの一員として協力し合える仲間づくりと規則正しい生活習慣を身に付ける。

3) フリータイム・アクティビティ (Free Time Activities : F T A)

① サブキャンプ・アクティビティ

サブキャンプの生活を充実させるために、音楽やダンス等の演技披露、参加者同士の競争による運動会、水引細工・けん玉・折り紙等の日本のあそびを参加隊の協力によって実施する。

② APR (ワールド) スカウトセンター (APR <World> Scout Center)

各国連盟や都道府県連盟によるスカウト運動の紹介・展示により、スカウト活動の変容や多様性について学ぶ。

③ スカウトパビリオン

アマチュア無線局による世界各国との交信、切手やワッペン等のスカウトコレクション、協賛企業・団体等による活動紹介。

④ スカウト通信員 (Young Corresponding)

各国派遣団から選ばれたスカウトが通信員として、ジャンボリー期間中に得た体験や経験をスカウト自身のメッセージとしてマスメディアを通じて社会に伝える。

⑤ ジャンボリーフレンドシップアワード

参加スカウトが大会期間中にプログラムに積極的に取り組めるように、各種プログラムに対して横断的な課題を設定したアワードを計画している。このアワードはジャンボリープログラムの修了章としてではなく、大会を通して出会った友人達との絆を確かめるため、そして、各種プログラムの理解促進を促すためのものとする。

4) 信仰奨励 (Faith and Beliefs)

各教宗派による展示や祈りの場を設け、宗教的価値観や文化を探求することにより、様々な信仰や信条に触れ合う機会を提供し、理解を深める。

5) 代表スカウトによる広島平和記念式典への出席

参加各国・各県の代表スカウトが8月6日に行われる平和祈念式典へ参加し、平和について共に考え、平和へのメッセージを世界に発信する。

6) 文化交流デイ（仮称）

8月4日に開催され、テーマに沿って宗教儀礼、参加隊同士の交流プログラム、アリーナショーで構成される一日のプログラムとする。

① 宗教儀礼

教宗派を超えた宗教儀礼により、自身の信仰を深めるとともに、多くの宗教への理解を深める。

② 交流プログラム

参加者の国や地域が持続可能な取り組みについて、各参加隊で考えたことや実践したことを紹介・評価することで、参加者相互の交流を深めながら多様な人たちによる取り組みを理解し、持続可能な社会にむけて発展させる。

③ アリーナショー

日本の祭りなどの伝統文化を現代的に表現し、革新（Innovation）へと導く。

7) セレモニー（Ceremonies）

① 開会式（Opening Ceremony）

8月1日に開催され、参加者がジャンボリーの開会を祝い、ジャンボリー全体が初めて「和」として一つになり、若いスカウトの力（Energy）を導く。

② 閉会式（Closing Ceremony）

8月7日に開催され、ジャンボリー会場で過ごした時間を数多くの友人達と振り返り、感動を共有する。大会を通じて深めた友情から多様性を理解し平和に向けて調和（Harmony）していく。

（3）日程（調整中）

プログラム実施日については、2ページの第2項に示したとおり予定し、実施時間については、ゆとりある大会を実現するとともに日中の暑さを避け、次の基本日課の午前・午後・夜間の活動時間内とする。

〈基本日課〉

起床	6：00	夕食	18：00
朝食	7：30	国旗降納	18：30
国旗掲揚	8：00	夜間の活動	19：30～22：00
午前の活動	9：00～12：00	就寝	23：00
昼食・休憩	12：00～14：00		
午後の活動	14：00～17：00		

* 時間配分については今後調整し、ブリテン等で発表する。

1.3. 会場利用計画と参加者の生活

（1）会場整備の基本方針

会場整備の計画立案にあたっては、会場となるきらら浜の環境と既存の施設・設備を活用して、大会に必要な施設・設備を仮設物により効率的に構築する。

仮設物の設置撤去にあたっては、環境に配慮したイベントとして、資源やエネルギーの節約に努め、廃棄物の発生を最小限にする。

会場の利用計画および各種施設については、台風や豪雨等によっても参加者のキャンプ生活が継続

できるよう設備の維持・保守を計画する。

(2) 会場利用計画の区分

1) 生活地域

参加者の生活地域として2千人(50隊)規模のサブキャンプ(SC)を6カ所と、大会運営スタッフや派遣団本部員等の成人のためのサブキャンプ1カ所を設置する。

参加隊の複数のSC(3つのSCを予定)に1つの共同施設をハブ(仮称)として設置する。成人SCには1つのハブを設置する。

ハブ(仮称)には、救護所、売店等の生活に必要な共同施設を設置する。生活地域には、生活に必要な給排水設備、トイレ、シャワーと各参加隊・参加者が共有する広場を設置する。

参加隊のサブキャンプへの配置は、参加スカウトがキャンプ生活を通して友情と相互理解を深めるため、原則として分散して配置するが、その割合は各県連盟の実情と要望を考慮して定める。また、特定のサブキャンプに外国派遣団をまとめて配置し、サブキャンプの運営をリハーサルする予定である。参加隊のキャンプ地は1隊に対して約500㎡(約150坪)を基準として割当てる。

2) プログラム地域

① モジュール・プログラム (Module Programme)

モジュール・プログラムの実施場所を場内に3カ所(1日プログラム1カ所、半日プログラム2カ所)設ける。

② 信仰と信条 (Faith and Beliefs)

信仰と信条の実施場所として、各教宗派による展示や祈りの場を設ける。

3) アリーナ地域

全体行事を実施するアリーナ地域を、きらら博記念公園内のスポーツ広場に設ける。

4) きらら博記念公園

きらら博記念公園の施設を活用して、参加者や見学者等が自由に訪れることのできるエリアを設ける。また、フリータイム・アクティビティーやデイビジター・プログラム等を同所で実施できるよう関連の設備を設置する。

① APR (ワールド) スカウト・センター (APR Scout Center)

各国連盟や都道府県連盟によるスカウト運動の紹介・展示するスペースと各派遣団の本部機能を持たせる。

② プラザ (Plaza)

参加者と見学者に向けた商業施設として、次の売店・食堂を設ける。

- 大会記念品、キャンプ用品等を扱うスカウト用品売店
- 参加者の生活に必要な生活雑貨や飲料等の日用品、地元物産品、郵便・宅配・外貨両替・ATM・国際公衆電話等のサービス等を扱う一般売店
- 見学者に向けた軽食や弁当等を扱う一般食堂

5) 大会本部地域

大会本部の業務・運営に必要な事務所機能、会議所、倉庫を備えた大会本部地域を設ける。大会本部の事務所機能や会議所は、各派遣団も利用できる。

6) 駐車場地域

きらら浜の既存の駐車場を活用して、参加者の入退場やプログラム等のバスが発着するバスターミナル、業務用車両、来賓車両、見学者車両、参加者の留置き等の用途に応じて区分して利用する。また、駐車場地域には各派遣団で利用するコンテナを集積するコンテナヤードを設ける。

(2) 食事（配給）

1) 食料の配給

参加隊の食事は野外炊事とし、大会本部から米等の主食を含む食料の配給を受ける。日中の活動を充実させるために昼食については、調理を必要としない携行食とする。

食料の配給は、7月31日（水）夕食から8月8日（木）朝食まで23食分とし、各食40人を単位として配給する。

* 配給の方法については決定後ブリテン等で発表する。

2) 炊事用燃料の配給

炊事用の燃料については、ガス等の気体燃料を予定し、その種類については別に示す。参加隊には、調理の回数に応じて必要な量の燃料を配給する。

3) 本部食堂

大会運営スタッフと派遣団本部員は、本部食堂での給食または携行食の配給を受ける。給食と配給は、7月29日（月）夕食から8月9日（金）朝食までの32食とする。

4) 標準献立

標準献立表は、別に示す。

* 宗教上あるいはアレルギー等の理由に対応するベジタリアン食、ハラール食を用意する予定。

(3) 服装および携行品

1) 服装

加盟員が、開閉会式、宗教儀礼等に参加する際は、制服を着用する。制服には参加章、記章、標章を正しく着用する。

生活および作業の際には、それに適した服装とし、プログラム参加時の服装・携行品については別に示す。

2) 携行品

① 参加隊の携行品

16NJの携行品およびキャンプ用装備は、快適なキャンプ生活を維持し、かつ楽しいジャンボリー活動が展開できるよう、簡素で、しかも精選されたものを準備する。これらの装備品等は準備訓練で十分使い慣れておくこと。生活地域（サブキャンプ）は、日陰がないので、フライシート等の日除けが必要であり、強い風への対策が必要である。

② 大会運営スタッフの携行品

大会運営スタッフは、生活に必要な個人装備品と宿泊用のテント等を持参する。

③ 外国派遣団

外国派遣団は、生活に必要な個人装備品を準備する。APR各国連盟からの派遣団には宿泊用テントを貸与する。参加隊あるいは班に支給する食堂フライ、テーブル、椅子、炊具等の費用を参加者負担金から充当する。

14. 輸送

(1) 輸送計画

各派遣団は、当該参加隊と大会運営スタッフの輸送計画を立案し、調整を行う。

大会本部は、会場内で一度に停車・乗降できるバスの台数に限りがあるため、到着・出発の時間帯を定め、各派遣団の輸送調査を踏まえ、各派遣団の到着・出発時刻を全国的に調整する。

(2) 集散移動に要する経費

国内参加者の居住地から会場までの集散移動に要する経費は、すべて参加者の負担とする。外国連盟からの参加者については、指定の到着ポイント（福岡国際空港、山口宇部空港、JR新山口駅）から会場までの往復の交通費を参加者負担金から充当する。

(3) キャンプ装備・備品等の輸送

- 1) 個人の携行品は、参加者が各自で携行することを原則とする。
- 2) 参加隊、大会運営スタッフ、派遣団本部員の装備・備品等の荷造発送方法は、別に示す。
- 3) 輸送に関する細部は、別に定める。

(4) 個人の車両

会期中、会場内における個人の車両の使用は認めない。

(5) 会場内の交通制限

会期中、会場内を通行できる車両は、大会本部、警察、消防、報道、郵便、関係業者等の大会業務に必要な車両に限定し、その基準は別に定める。

* 業務によっては自転車の活用を検討し、利用方法は別途定める

15. 入場・退場

(1) 参加隊の集散

全国の参加隊の集散の所要日数を同じにするため、集合時には会場に近い派遣団から入場し、解散時には遠い派遣団から退出することを基準とする。

* 深夜・早朝の入退場は、会場近隣への影響と安全な誘導を考慮し、別途検討される

1) 入 場

参加隊は、7月31日（水）の朝から夕刻までに会場に到着し、1日（木）の開会式までに設営を完了する。航空便等により7月31日（水）の入場が困難な外国派遣団については、8月1日（木）の午前中の入場を認める。

2) 退 場

参加隊は、8月8日（木）の昼までに会場を出発する。

* 退場開始時間は別途検討される

3) 手続き

入場・退場に関する手続きは、別に示す。

(2) 大会運営スタッフの集散

1) 入場・退場

I S T、J D T、J C T、J M T等の大会運営スタッフの入場は、7月29日(月)の正午までとし、夕食までに設営を完了する。7月29日(月)の夕食後から30日(火)までの2日間は、I S Tトレーニングを行い、7月31日(水)の参加者入場に備える。

大会運営スタッフの退場は、参加隊の退場完了後とし、8月9日(金)の午前中を予定する。入場・退場の手続き、最寄り公共交通機関からのシャトルバスの運行、駐車場の利用等は別に示す。

2) 先発・後発要員

事前の準備から携わるJ D T、J C T、J M Tのうち、I S Tの到着受け入れや退場等に必要なスタッフは、予め実行委員会から入場・退場日時が指示される。先発・後発要員の細部については別に示す。

16. 危機管理・安全管理・健康管理

(1) 危機管理

本大会開催中に発生した自然災害、戦争やテロ行為、感染症の流行等の非常事態に対しては、大会本部の定める危機管理体制により、参加者の避難、プログラムの中止等を含めて危機に対応する。本大会の全ての参加者(スカウト、指導者、大会運営スタッフ等)は、本大会の危機管理についての情報を充分確認し、万全の体制で取り組む。特に、指導者、運営スタッフは参加スカウト、一般見学者等の安全確保を基本に危機管理に対応する。

危機管理についての体制、行動基準、危険回避の手順等を定めた「危機管理対応マニュアル(仮称)」は、別に示す。

(2) 安全管理・事故の防止

大会の参加者は、教育プログラムとしてのジャンボリーを快適なキャンプ生活を基本として、スカウト精神を発揮した心に残る自然体験活動とするため、安全管理と事故防止に努めなければならない。

特に参加隊においては、現状の各団、各隊の混成による編成となるため、事前準備訓練、大会期間中を通じて、隊内のコミュニケーション(指導者間、指導者とスカウト、保護者等)の円滑化により安全管理意識の徹底と事故防止に努める。

参加隊は、別に示す「事前訓練に対する留意事項(仮称)」に基づき、事前から安全管理、事故発生の防止に努める。

参加者(スカウト、指導者、大会運営スタッフ等)は、自然の中での生活、プログラム、諸活動は、危険との表裏一体であることを認識して、安全の三原則を厳守しなければならない。

〈安全の三原則〉

- ・自分の安全は自分で守る
- ・ルールを守る
- ・安全を最優先にする

大会本部は、別に示す「安全管理ハンドブック(仮称)」により、大会全体の安全管理体制、安全管理・事故防止について、参加者が認識の共有ができるように努める。

派遣団および参加隊は、事前訓練から大会終了、帰宅まで安全管理体制の構築と事故防止の徹底

に努めなければならない。

(3) 健康管理・個人衛生

参加スカウトは、各指導者の指導のもとに、健康管理と保健衛生に充分留意する。

会場は、朝夕の寒暖の差があること、日中の日陰となる場所が少ないことを考慮して、熱中症等の発症予防と健康管理に対して十分な対応が必要である。

過去2回の日本ジャンボリーでは、救護所の受診者数が全参加者の1割を超えたことから、参加者自身による健康管理と、指導者による応急手当への備えを徹底する。

参加者の健康管理や保健衛生への対応について、大会本部は「健康管理マニュアル（仮称）」を事前に配布し、自己および各参加隊、大会運営スタッフの健康管理、個人衛生について周知、徹底を図る。

(4) 救護体制

会場内の参加者の健康管理と傷病に対して万全を期するため、会場内に可能な限りの医療処置ができる大会救護所1カ所と、応急手当ができる救護所を複数カ所に設置する。また、外部の医療機関との連携をはかり、傷病の度合いにより搬送、受診ができるように手配を行う。

大会救護所での治療に掛かる経費は、参加者負担金で賄われるが、薬代、場外病院での治療、既往症が悪化した場合には個人負担とする。

17. チャイルドプロテクション

16NJおよび23WSJにおいて、成人による、またスカウトとスカウトの間での、あらゆるいじめ・虐待・差別防止等への認識を促し、適切な行動を取ることを可能にするために、すべての参加隊指導者、大会運営スタッフそして協力者にチャイルドプロテクションの研修機会が提供され、ジャンボリー期間前に修了することが義務づけられる。

18. 大会組織と運営

(1) 準備・運営の方針

大会の準備・運営にあたっては、本大会の目的が達成できるように次のことに配慮する。

- 大会運営スタッフは、主役はスカウトであることを常に念頭に置き、彼らの成長に寄与できる運営を心がけるとともに参加者に対してサービス精神を持って対応する。
- 運営を円滑に進めるために、部署間で情報の共有化を図り、連携を強くする。
- 外国参加者への対応については、特定の部署のみで行わず必要な業務に応じて各部署で行う。
- 生活設備等についても参加者へのサービスを考えたものとする。
- 大会運営スタッフおよび派遣団本部員の宿泊については成人サブキャンプカ所に定める。
- 「残すものは感謝のみ」というスカウト精神に基づき、環境に配慮した運営を行う。

(2) 準備・運営・支援の組織

日本連盟は、都道府県連盟、外国連盟ならびに関係諸団体等からの人的支援により、理事会のもとに16NJ実行委員会を編成し、大会運営に関する諸準備を行い、本大会の運営は、ジャンボリー・

マネージメントチーム（JMT）が世界スカウトジャンボリーのガイドラインに沿って、23WSJの実行組織と連携を図りながら進める。

1) ジャンボリー・マネージメントチーム（Jamboree Management Team：JMT）

JMTは、JCTと共に、アジア太平洋地域（APR）および世界スカウト機構（WOSM）がガイドラインに定める組織委員会の役割を担う。

準備段階では、APR、WOSM、各国スカウト連盟との窓口となり、説明とプロモーションを行い、より多くの参加者を得る。大会実施時は主催者であるWOSMとの連携、各国連盟との連絡調整、大会運営全般を行う。

2) ジャンボリー・コアチーム（Jamboree Core Team：JCT）

JCTは、大会本部各部の部長あるいは副部長等の主要メンバーで編成し、大会全体の運営を担う実質的な実行組織となる。

3) ジャンボリー・デリバリーチーム（Jamboree Delivery Team：JDT）

JDTは、各部署の専門的な業務に分かれ、大会の分野・部署に応じた各種業務を大会前より立案・準備する。大会直前からは、JMT・JCTと共に主要な大会運営スタッフとなり、日本全国および世界の国々から集まる国際サービスチーム（International Service Team：IST）と協働して、大会の運営にあたる。

4) 23WSJ日本委員会

23WSJプレジャンボリーとしての16NJ/30APRSJ、および23WSJを支援するため、政界、財界、中央省庁、関係県・市による「23WSJ日本委員会」が編成されている。

（3）参加隊指導者の役割

ジャンボリーの活動は、参加するスカウトのために構成されており、各参加隊の指導者によりスカウトの学習・体験を支援し、個人の成長・発達を促すことが必要である。

各参加隊の指導者は、所属する派遣団と連絡を取りながら隊編成ならびに参加に関する準備を進め、大会に関する情報を隊内の参加者に提供していかなければならない。

また、期間中は参加隊スカウトの指導・管理と併せて、サブキャンプスタッフの一員として、サブキャンプ本部および他の参加隊指導者と協力して、参加者の健康と安全に十分留意した快適なキャンプ生活と大会プログラムの円滑な実施のため、必要な役割を担う。

（4）大会本部各部の所掌業務

	項目	業務内容
J M T	大会運営・管理： ジャンボリーマネージメントチーム (Jamboree Management Team: JMT)	大会の運営と管理にあたる。 - 16NJではJMTメンバーを中心に実行委員会を編成し、大会準備・実施 - 16NJではアジア太平洋地域（APR）からの窓口となる組織 - 23WSJでは世界スカウト機構（WOSM）からの窓口となる組織 - 大会の説明とプロモーション - 大会実施時には、大会組織の中心として、WOSM・APR関係者と共に大会運営

【大会各部の分類】

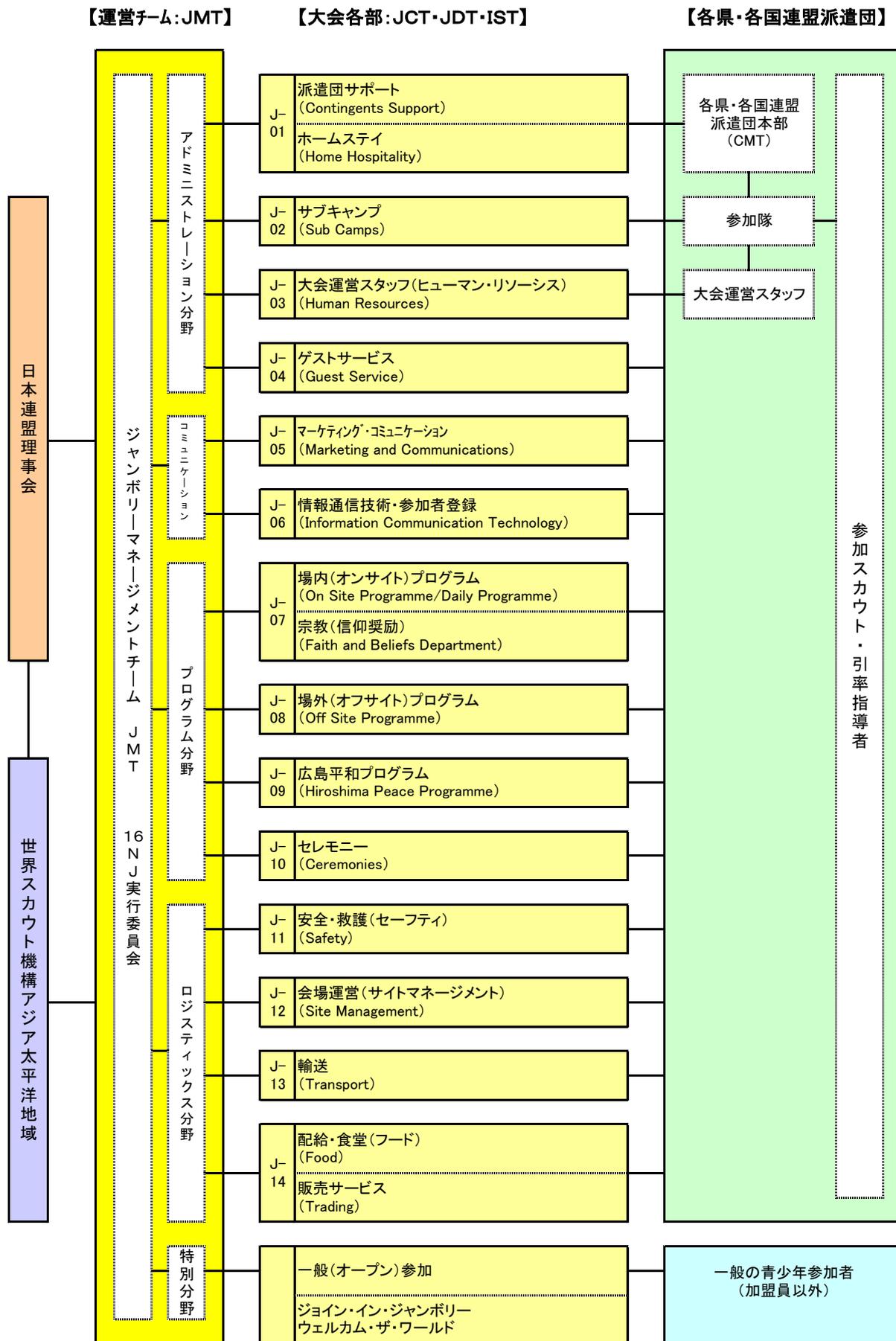
J-01	<p>派遣団サポート (Contingents Support)</p> <p>ホームステイ (Home Hospitality)</p>	<p>各県連盟および各国連盟からの派遣団へのサポートを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 各県連盟および各国連盟派遣団の窓口 - 大会前後の通信窓口(ホームステイ・見学等を含む) - オペレーションきららによる招聘事業、ブレ大会スタディビジット(23WSJ各国派遣団長の調査訪問)、派遣団長会議、APR(ワールド)スカウトセンター、コンテナ、ウェアハウス(倉庫)、同時通訳、ビジネスセンター等を含む <p>16NJ(30APRSJ)の外国参加者は1千5百人から2千人程度が予定され、うち5百人から1千人の外国スカウト・引率指導者のホームステイが見込まれる。23WSJでは約1万人のホームステイが見込まれるため、16NJでホームステイ受入体制を整える。</p>
J-02	サブキャンプ (Sub Camps)	<p>サブキャンプ(SC)に配属される全ての参加者のために生活の場を築き、全員が参加することができるサブキャンプ活動(プログラム)を提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 参加隊・参加スカウト・引率指導者と大会の窓口となり、参加者の様々な問題に対応 - SCの運営、SCスタッフの役割分担、参加隊指導者の任務分担 - 複数のSCに共有施設としてハブ(仮称)を設置し、維持・管理 - SCライフ、SCプログラム等を含む
J-03	大会運営スタッフ (ヒューマン・リソース) (Human Resources Department)	<p>日本および世界からの大会運営スタッフ2千人以上を確保し、各部への配属を行うとともに、大会運営スタッフの生活サイト、プログラム等を提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 大会運営スタッフの窓口 - 成人サブキャンプの運営・管理 - 夜のスタッフプログラムの検討 - 大会業務カタログ、JDT・IST参加登録、IST訓練、成人サブキャンプの運営、JamHotel(場内有料宿泊テント)の提供と運営、その他大会運営スタッフに関する事項を含む
J-04	ゲストサービス (Guest Service Department)	<p>デイビジターの運用、特別来賓に関する全ての手配、各国派遣団レセプションのコーディネート、場外宿泊施設の運営等を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> - デイビジターの入場料徴収、登録、ガイドブック、プログラム - 特別来賓 - スカウトゲスト(各国連盟役員等)の受入 - 各国派遣団のレセプション(場所・ケータリング含む) - 場外宿泊施設の手配
J-05	マーケティング・コミュニケーション (Marketing and Communications)	<p>ジャンボリー期間前の全てのプロモーション資料・用品(プリン、サーキュラーを含む)とウェブサイトの運用、大会広報等を担当する。</p> <ul style="list-style-type: none"> - ジャンボリー期間中は、メディアセンター運営、ジャンボリー新聞、スカウト通信員プログラム運営、ジャンボリーラジオの運用を含む - 広報、大会情報発行全般を担当
J-06	情報通信技術・参加者登録 (Information Communication Technology)	<p>計画と準備段階ではeメールとイントラネットシステムを確立</p> <ul style="list-style-type: none"> - 期間中は、コンピューターネットワークを構築、インターネットカフェと電話の運用、そして参加者の登録とチェックインを運用する - 参加登録システム、本部食堂入場管理、参加費等入金確認システムを含む

J-07	<p>オンサイト(場内)プログラム (On Site Programme) (Jamboree Daily Programme)</p> <p>宗教(信仰奨励) (Faith and Beliefs)</p>	<p>ジャンボリー会場で行われるプログラムを計画し運営する - 地球開発村 (GDV: Global Development Village)、文化の交差点 (Crossroad of Culture)、科学の都市 (City of Science)、トーナメント (Tournament)を含む 毎日の活動は、信仰奨励、夜のプログラムの計画と実施等を運営する</p> <p>参加者が自身の信仰に基づいた生活を行うと共に、他の様々な信仰について知る機会を提供する。 - 期間中は様々な信仰奨励の機会、信仰や宗教に関する情報の提供 - 宗教儀礼の実施、世界の様々な信仰に触れる機会の提供等</p>
J-08	<p>オフサイト(場外)プログラム (Off Site Programme)</p>	<p>地域社会奉仕 (Community Service)、水上プログラム (Water Activities)、自然探求 (Nature Exploring) の3つの場外プログラムを行う。 - 毎日4千人あるいは2千人のスカウトが場外の各プログラムに参加できるよう手配</p>
J-09	<p>広島平和プログラム (Hiroshima Peace Programme)</p>	<p>広島平和プログラムと各国連盟代表スカウトの広島平和記念式典参加を実施する。 - 毎日4千人または2千人のスカウトが参加出来るように手配を行う - 平和記念式典への参加を調整し手配する</p>
J-10	<p>セレモニー (Ceremonies)</p>	<p>ジャンボリー会場のメインステージと他のすべてのステージで行う催しを運営する。 - 開会式、閉会式、デイビジターへのショーを計画、実施 - ジャンボリーソングの企画・審査 - セレモニー出演者の選考 - アリーナの運営</p>

J-11	安全・救護(セーフティ) (Safety)	ジャンボリーを安全で信頼できる環境に整える。 - 安全管理(セキュリティを含む)、警察、消防との調整 - 危機管理(ガイドライン提供と実施)、法的対応 - チャイルドプロテクション取り組み推進とカウンセリング - ジャンボリー救護所、ハブ救護所等の設置と運営
J-12	会場管理 (サイトマネージメント) (Site Management)	会場設計・整備・運営に関する全ての業務を担当する - ジャンボリー会場および関連場外施設の借用、会場設計、設営と撤営の段階、サイトのネーミング、そして全てのマーキー、テント、キャビンの手配 - 大会前後の設営・撤営要員の確保、会場のフェンス、ゴミ処理、倉庫、テントの手配 - ジャンボリー会場に必要な全てのサービス(電気、水道、廃棄、他)の計画と提供、そして、ジャンボリー期間中は維持等を含む
J-13	輸送 (Transport)	人員と物資の輸送を担当する。 - 外国参加者へは日本国内の指定空港から会場間の参加費に含まれる交通手配 - 場外プログラムのバス手配、駐車場の手配と管理、本部員・IST用のレンタル自転車を含むジャンボリー全車両の計画と運営
J-14	配給・食堂(フード) (Food)	SCに配属される全参加者への食料提供、クッキングハンドブック作成、本部員・IST用の大会運営スタッフのレストラン運営、ケータリング、ジャンボリー前後の食事提供を行う。
	販売サービス (Trading)	一般売店、スーパーマーケット、フードハウスのコーディネーター、銀行、郵便局、写真、ランドリー、スカウトショップ、その他の出店調整を行う
特別分野	一般(オープン)参加	16NJでは、日本国内から一般の青少年も参加者として受け入れるので、そのための業務とサービスの提供を行う。
	ジョイン・イン・ジャンボリー ウェルカム・ザ・ワールド	大会の関連プログラムとして、関係各部の協力により、ジョイン・イン・ジャンボリーとウェルカム・ザ・ワールドの展開を推進する。

* 各部の名称、業務内容等は、今後の協議により更新されることがある

(5) 大会組織図



第16回日本ジャンボリーに関する留意事項

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟では、本大会の開催に向けて、次の留意事項を大会参加の有無に関係なく、広く周知していきます。ご理解とご協力をお願いいたします。

1. 環境に配慮した行動

本大会は、大会運営はもとより、大会参加者についても、環境に配慮した行動を心がけ、環境への負荷を少なくした大会とする。

2. 個人情報と写真・映像の取り扱い

大会の参加申し込み等によって得た個人情報ならびに健康状態等は、参加者管理のための参加者名簿・参加者データを作成し、大会運営に使用する。また、参加のための情報提供ならびに運營業務によって、外部委託先に個人情報を提供することがある。

個人情報の保全・安全管理については、個人情報の保護に関する法律に基づき適切に取り扱い、大会業務終了後には速やかに廃棄する。

大会の記録用として撮影した画像、映像はすべて財団法人ボーイスカウト日本連盟に帰属することとする。参加者の写真や映像は、ジャンボリー新聞、記録映像、ホームページ、報告書等の大会の記録に使用する他、スカウティング誌、各種パンフレット等のボーイスカウト運動普及・振興のために使用する場合がある。使用に際しては、できる限り、個人の特定ができないように配慮する。

参加者の個人情報の収集・利用、写真・映像の使用については、参加申し込みをもって承諾を得たものとし、見学者や協力者等もこれに準ずる。

3. 加盟員関係者を含む近隣地域でのキャンプの禁止

加盟員関係者が会場の近隣地域でキャンプを行うことによって、本大会との関連性や混同等のトラブルを避けるため、会期中は、ジャンボリー会場から5km以内の範囲でのキャンプを禁止する。

4. 関係者への連絡

開催地の自治体、協力機関および周辺の住民に対して、大会に関する連絡を行う場合は、必ず日本連盟事務局を経由しなければならない。

5. 事前視察

会場予定地は、個人・法人等で所有する私有地であることから、事前の視察で用地に立ち入る場合には、予め土地所有者への連絡が必要である。視察を行う際には、所属の県連盟を通じて日本連盟事務局へ連絡しなければならない。

6. ジャンボリーシンボルマーク・商標の取り扱い

日本連盟の許可なしに、本大会のシンボルマークや日本連盟の商標を付した製品を製作、販売する場合は、「スカウト章（世界スカウト章を含む）の取り扱いに関する取り決め」（日本連盟規程集・平成23年版は206頁に記載）に基づき行うこととする。

7. 商品販売

日本連盟は、商品販売を行う売店地域を会場内に指定し、事前に販売品目および価格の調整を済ませた者だけが販売できる。会場では参加者に必要な土産品、日用品、サービスを基準に販売が許可される。危険物や参加者に悪影響を及ぼす恐れのある品物は販売できない。

また、日本連盟は、大会への支援者・協力者を考慮して、一部の販売品目について銘柄等、取扱商品を指定する場合がある。

付表－1 第16回日本ジャンボリー 会場までの交通案内図

第16回日本ジャンボリー 会場までの交通案内図



●自家用車利用の場合

【広島方面より】

山陽自動車道 山口南ICから25分

【福岡方面より】

山陽自動車道宇部下関線経由

山口宇部有料道路 阿知須ICから5分

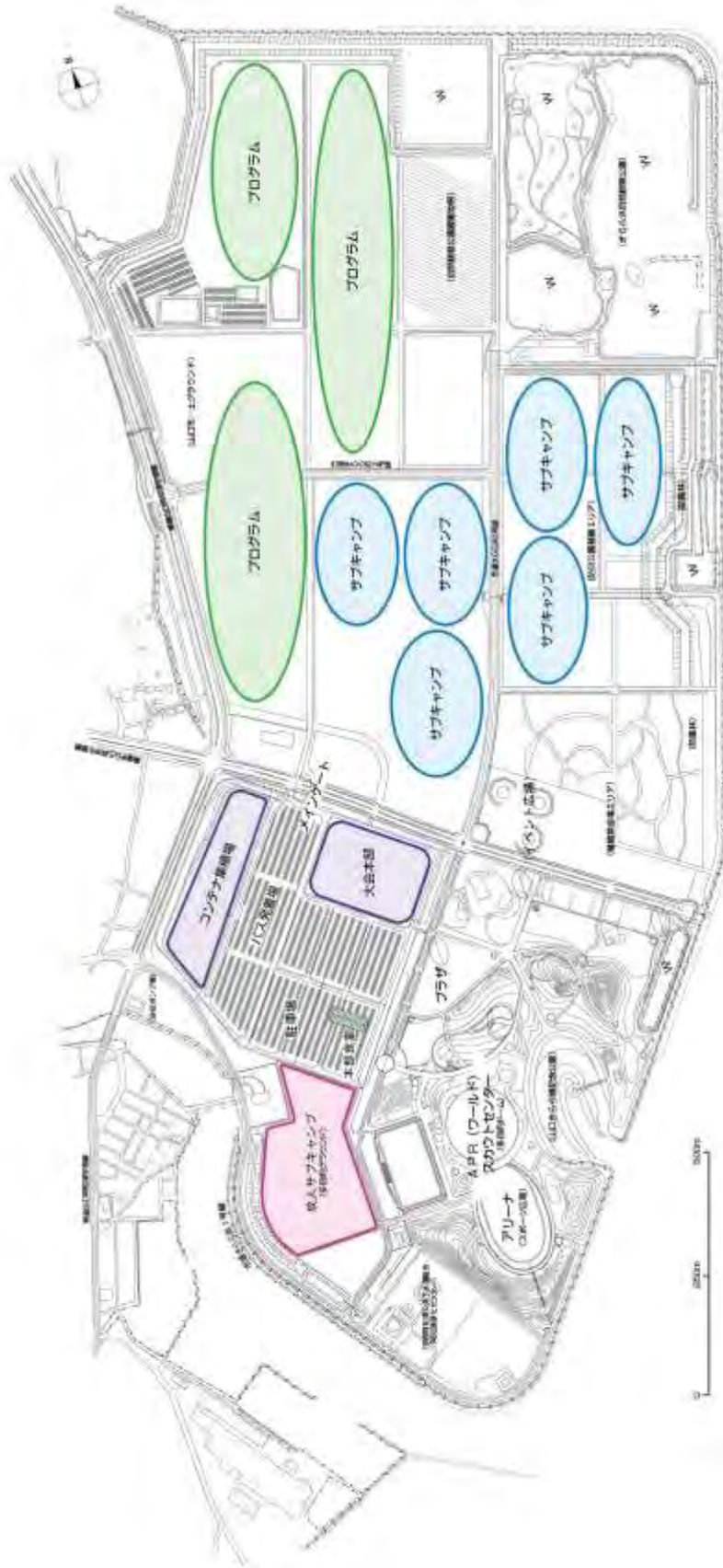
●公共交通機関をご利用の場合

山口宇部空港から車で25分

JR山陽新幹線 新山口駅から車で15分

JR宇部線 阿知須駅から徒歩30分

付表-2 第16回日本ジャンボリー会場図



付表－3 大会およびジャンボリー年表

項	回数	開催年月	開催場所	参加人数	参加国数	日本代表
全国大会	1	昭和 24. 9. 24～25	東京 皇居前	4,000	1	—
	2	昭和 25. 8. 18～20	東京 新宿御苑	5,000	1	—
	3	昭和 26. 8. 4～6	山形 蔵王	8,000	1	—
日本 ジャンボ リー	1	昭和 31. 8. 2～6	長野 軽井沢	13,000	12	—
	2	昭和 34. 8. 6～10	滋賀 あいばの	17,000	16	—
	3	昭和 37. 8. 3～8	静岡 御殿場	26,000	16	—
	4	昭和 41. 8. 5～9	岡山 日本原	30,000	12	—
	5	昭和 45. 8. 6～10	静岡 朝霧高原	32,600	13	—
	6	昭和 49. 8. 1～6	北海道 千歳原	26,700	12	—
	7	昭和 53. 8. 4～8	静岡 御殿場	26,270	15	—
	8	昭和 57. 8. 2～6	宮城 南蔵王	30,144	17	—
	9	昭和 61. 8. 2～6	宮城 南蔵王	30,173	16	—
	10	平成 2. 8. 3～7	新潟 妙高高原	31,972	32	—
	11	平成 6. 8. 3～7	大分 久住高原	30,914	22	—
	12	平成 10. 8. 3～7	秋田 森吉山麓高原	26,740	34	—
	13	平成 14. 8. 3～7	大阪 舞洲スポーツアイランド	20,588	37	—
	14	平成 18. 8. 3～7	石川 珠洲	20,652	38	—
	15	平成 22. 8. 2～8	静岡 朝霧高原	19,382	41	—
	16	平成 25. 7. 31～8. 8	山口 きらら浜	15,000		—
世界 (スカウト) ジャンボ リー	1	1920. 7. 30～8. 8	イギリス ロンドン・オリンピア	8,000	34	3
	2	1924. 8. 10～17	デンマーク エルメルン	5,000	32	32
	3	1929. 7. 31～8. 13	イギリス アローパーク	50,000	69	28
	4	1933. 8. 2～15	ハンガリー ゴドロ	25,792	33	10
	5	1937. 7. 30～8. 14	オランダ フォーゲレンザン	28,750	54	11
	6	1947. 8. 9～16	フランス モアッソン	24,152	71	0
	7	1951. 8. 3～13	オーストリア バトイスル	12,884	61	2
	8	1955. 8. 18～28	カナダ ナイアガラ・オン・ザ・レイク	11,139	71	14
	9	1957. 8. 1～12	イギリス サトンパーク	31,426	82	22
	10	1959. 7. 17～26	フィリピン マッキンリーパーク	12,203	44	520
	11	1963. 8. 1～11	ギリシア マラソン	11,398	89	138
	12	1967. 8. 1～9	アメリカ アイダホ	12,011	105	320
	13	1971. 8. 2～10	日本 朝霧高原	23,758	87	7,783
	14	1975. 7. 29～8. 7	ノルウェー リリハマー	17,259	91	141
	15	1983. 7. 4～14	カナダ カナナスキス	14,752	106	42
	16	1987.12.30～1988.1.10	オーストラリア カタクトスカウトパーク	14,434	84	548
	17	1991. 8. 8～16	大韓民国 雪岳山国立公園	19,083	135	2,675
	18	1995. 8. 1～11	オランダ ドロンテン	28,960	166	1,236
	19	1998. 12. 27～1999. 1. 6	チリ ピカルキン	31,534	157	227
	20	2002. 12. 28～2003. 1. 8	タイ サッタヒップ	24,000	147	1,250
	21	2007. 7. 27～8. 8	イギリス ハイランズパーク	40,000	155	1,510
	22	2011. 7. 27～8. 7	スウェーデン リンカンビィ	40,061	146	966
	23	2015. 7. 28～8. 8	日本 山口きらら浜	30,000		

付表－４ 第２３回世界スカウトジャンボリー情報

平成22年(2010年)5月25日開催理事会承認の基本構想に基づく

世界スカウト機構 (World Organization of the Scout Movement = WOSM) が主催し、ボーイスカウト日本連盟がホスト国連盟を務める第23回世界スカウトジャンボリー (23rd World Scout Jamboree : 23WSJ) の概要は次のとおりである。すべての提案内容は、世界スカウト委員会の承認が必要となる。2010年9月3日開催の世界スカウト委員会では、会期、会場、ロゴ、テーマが承認され、他の事項についても、記載のとおり準備を進めることが了承されている。

(1) 会 期

2015年(平成27年)7月28日(火)～8月8日(土) 12日間

7月25日(土) 大会運営スタッフ入場
7月26日(日) 大会運営スタッフ入場・国際サービスチーム員 (IST) トレーニング
7月27日(月) ISTトレーニング・日本参加者入場
7月28日(火) 外国参加者入場 (一部日本参加者入場)
7月29日(水) 外国参加者入場 (午前まで)・設営・開会式
7月30日(木) プログラム (モジュール)
7月31日(金) プログラム (モジュール)
8月 1日(土) プログラム (モジュール)
8月 2日(日) プログラム・全体行事
8月 3日(月) プログラム (モジュール)
8月 4日(火) プログラム (モジュール)
8月 5日(水) プログラム (モジュール)
8月 6日(木) プログラム (モジュール)・各国連盟代表広島平和記念式典参加
8月 7日(金) プログラム (モジュール)・閉会式
8月 8日(土) 外国参加者退場 (一部日本参加者退場)
8月 9日(日) 日本参加者退場・大会運営スタッフ退場

(2) 会 場

場 所： 山口県山口市きらら浜
経 緯 度： 北緯34度01分、東経131度23分
海 抜： 2.7m～15.8m

(3) ロゴとテーマ

ロ ゴ： 右のデザインが世界スカウト委員会で承認されている

テ ー マ： 「和」～ WA: a Spirit of Unity ～

漢字の「和」をテーマとする。第23回世界スカウトジャンボリーは、伝統 (tradition) と技術 (technology) が交差する日本で、人類の平和 (peace) と調和 (harmony) をめざし、すべての青少年が一つにまとまり (unity)、明日の世界を切り開く (creating a better world) 大会とするため、「和」を大会テーマとする。



(4) 参加人員・対象者・参加形態

参加人員：30,000人 世界スカウト機構に正加盟する161の国と地域から参加
(うち日本から6,000人)
*世界スカウト機構により、各国からの参加者は全体の10%まで、開催国からの参加者は全体の20%までと定められている

参加対象：参加スカウトは、開会式時点で14歳以上、閉会式時点で18歳未満の者
引率指導者、派遣団本部員(CMT)、国際サービスチーム員(IST)、その他大会運営スタッフは、参加スカウトの対象年齢を超える18歳以上の者
(WOSMガイドラインに基づく)

参加形態：従来の世界ジャンボリー同様、参加隊の構成はスカウト36人と成人指導者4人とし、9人のスカウトからなる班(パトロール)4班で1隊を編制する。それぞれの班について1人の成人指導者がつかなければならない。

(5) 参加費

世界スカウトジャンボリーの参加費は、世界銀行が定義する国民総所得(Gross National Income: GNI)による4つのカテゴリーA・B・C・Dにより定められる。

カテゴリーD(高所得)の国は100%の参加費、Cは75%、Bは50%、A(低所得)は25%となる。この参加費の減額は、従来の世界スカウトジャンボリー大会で採用されたアプローチに準拠する。

参加費：

カテゴリーD 100,000円(日本はカテゴリーD)
カテゴリーC 75,000円
カテゴリーB 50,000円
カテゴリーA 25,000円

*** 参加費は物価変動等に対応するため、開催2年前に見直しを行う**

* 参加費は外国為替レートの変動に影響されないよう日本円で設定する

* ISTの参加費は、割引された世界スカウトジャンボリーがあったが、参加者到着前に2日間のトレーニング期間の経費を含み同額とする

参加費に含まれるもの

外国参加者の指定の到着ポイント(関西国際空港、福岡国際空港、山口宇部空港、新山口駅)から会場までの往復の交通

参加隊は7月28日の夕食から8月8日の昼食までの配給等33食

大会運営スタッフは7月25日の夕食から8月9日までのアダルトレストラン等での45食

(日本の参加隊で外国隊の設営・撤営をサポートするために、1日早く入場し、1日遅く退場する場合は、両日の夕食から昼食まで追加支給する)

IDカード、大会参加章(ワッペン)、大会ネッカチーフ(参加区分により色が異なる)、大会ハンドブック等の参加パック

参加隊あるいは班には、食堂フライ、テーブル、イス、炊具、燃料(ガス)

大会プログラムへの参加経費

大会期間中のジャンボリーホスピタルでの処置（既往症が悪化した場合を除く）

場外病院での治療、薬代は大会参加費に含まない。これらは、各派遣団が海外旅行傷害保険あるいは国内旅行傷害保険の付保を強く勧めることで対応する。

(6) 提案プログラム (Proposed Programme)

1) プログラム・モジュール

世界スカウト機構の「ガイドラインと基本要件」に沿ったモジュールを英語と仏語で展開する。実施への支援は日本語で可能である。

- ① 地球開発村 (GDV=GLOBAL DEVELOPMENT VILLAGE) 半日・場内・班単位
- ② クロスロード・オブ・カルチャー (CRC=CROSSROAD OF CULTURE) 半日・場内・班単位
- ③ シティ・オブ・サイエンス (COS=CITY OF SCIENCE) 1日・場内・班単位
- ④ コミュニティ・サービス (COMMUNITY SERVICE) 1日・場外・班単位
- ⑤ 広島ピースプログラム (HIROSHIMA PEACE PROGRAMME) 1日・場外・班単位
- ⑥ 水上活動 (WATER ACTIVITIES) 1日・可能なら場内か会場周辺・班単位
- ⑦ 自然探求 (EXPLORING NATURE) 1日・会場から徒歩圏内・班単位

2) サブキャンプ (SC) ライフ

世界スカウトジャンボリーではサブキャンプでの生活そのものをプログラムとして提供する。23WSJでは、1SCあたり50隊（40人x50隊=2000人）の配属が予定されている。

内容：世界スカウトジャンボリーでは、生活そのものをプログラムと捕らえると共に、サブキャンプ内での様々な交流プログラムが提供される。例えば、サブキャンプ内で野外活動技能（パイオニアリング、コンパス他）、スポーツ（サッカー、バレー他）、障害物コース（チャレンジバレー）等を班または隊対抗競技（トーナメント）で考えられる。また、各国からの参加隊間での交歓夕食会、各国の料理を提供し合う「フードフェスティバル」等のプログラムが計画される。

3) 全体行事 (CEREMONIES)

「開会式・閉会式」は、WOSMの基本要件に沿ったもので、スカウトの印象に残るものとする。とくに安全面での配慮を行う。「教宗派間交流宗教儀礼」を通じて、自身の信仰を深めると共に、他の宗教に対する理解を深める。WOSMの基本要件を満たすもので実施する。全体行事としての実施の他、大会期間中を通じた宗教活動の場を提供する。可能であれば「アリーナショー」を実施し、日本の文化、そして参加各国への理解を深める。

4) フリータイム・アクティビティ (FREE TIME ACTIVITIES) 自由時間に行う・場内

内容：自由時間に班あるいは個人の選択で参加できるプログラムを会場内で提供する。一部はデイビジター（日帰り見学者）に解放する。

「ワールド・スカウト・センター」は、各国派遣団本部機能をもった各国のパビリオンで、中心に主催者である世界スカウト機構と各地域のパビリオンを配置する。ここは各国のスカウト運動の情報発信の場となり、参加者は世界各国のスカウト運動と文化が体験できる。

その他のプログラム要素として、WOSMの基本要件に定められているスカウト通信員、ラジオ・スカウティング、インターネット・リンク、サブキャンプライフ等を含むものとする。

5) 参加各国代表スカウトの「平和記念式典」への参加

「平和記念式典」は広島平和記念公園で毎年8月6日に開催され、2015年は戦後70周年を迎える。参加各国の代表スカウトはこの式典に参加し、世界に「平和のメッセージ」を訴える。

各国代表スカウトは、前日の8月5日に広島市野外活動センター等へ宿泊し、翌朝7時に会場入りする。毎年広島県連盟が奉仕している案内パンフレット配布や献花用花束輸送等の活動に従事した後、参列者席に着き平和記念式典に参加する。

(7) オペレーションきらら (Operation Kirara)

経済的に23WSJに参加することが困難な国のスカウトを支援し、世界の161の国と地域からのスカウトが一同に会する機会を提供する。世界スカウト機構が定めるガイドラインでは、大会参加費の2.5%をこれに充てることになっているが、3%を充てることを検討する。日本参加者からは、大会参加費に一定額(10米ドル以上)を上乗せし、このプログラムに貢献する。23WSJ日本招致時には、カテゴリーA・Bの国々から少なくとも各1班は参加できるように支援を検討することとしている。(自費参加が可能な分を除く) これには、政財界・関係省庁からの支援が重要となる。

(8) ホームステイ (Home Hospitality: HoHo)

大会前後のホームステイを通じて、日本の生活様式、文化への理解、相互理解を深める。ホームステイは、スカウト組織のみならず、組織外の青少年の家庭への広げ、参加者に日本の文化を経験する機会を提供すると共に、受入家庭には、受入国を理解する機会を提供する。また、ホームステイ受入国は、日本のみならず、例えば韓国、台湾、香港、ロシアといった近隣諸国の協力を得て、世界各国からの参加者の要望に応じられるものとする。

(9) 「ウェルカム・ザ・ワールド」プロジェクト (Welcome The World Project: WTW)

スカウトの国際理解・国際交流を促進するため、「ウェルカム・ザ・ワールド」プロジェクトを展開する。このプロジェクトを展開することにより、他団体にはない世界160の国と地域につながる活動を展開し、スカウト運動、そして日本の青少年活動に国際性をもたせ、活性化に貢献する。

(10) ジョイン・イン・ジャンボリー (Join In Jamboree: JIJ)

ジョイン・イン・ジャンボリーは、本来世界スカウトジャンボリーに参加出来ないスカウトたちが世界スカウトジャンボリーのプログラムを体験するためのプログラム、参加スカウトにとっては、事前準備となるプログラムである。23WSJでは、これを発展させ、世界中のスカウト以外の一般の青少年も対象に加えた過去に例を見ないプログラムを計画する。これを実現させることにより、日本国内では日本の社会教育、青少年活動全体の活性化に貢献する。

23WSJ期間中には、例えば日本全国の少年自然の家等で23WSJに参加できないスカウトと一般の青少年に23WSJプログラムを提供すると共に、ネットワークを使い23WSJ会場と回線をつなぎ、体験を共有できるものとする。可能であれば、日本国内のみならず、世界各国でも同様に展開する。



平成23年10月発行

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟
事務局23WSJオフィス

〒113-0033
東京都文京区本郷1-34-3
TEL：03-5805-2569
FAX：03-5805-2908
www.scout.or.jp
www.23wsj.jp